

滋賀の高校生が選んだ！ しがはいすくーるおすすめ本50選 (令和3年度優秀作品)

(著者名の50音順に並んでいます) (氏名の有無は本人の希望によります・学年は令和3年度当時のものです)

発行：令和4年10月 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

(八幡商業高校1年 井上 萼香さん)



『命の後で咲いた花』

綾崎 隼 著
KADOKAWA／メディアワークス文庫

この本は、二人の主人公、榛名なずなと羽宮透弥が、ある理由のため大学の教育学部で教師を目指す物語だ。これと題名の関係は初めは謎でしかないが、読み進めていくと、とても納得するような気持ちになる。また、この物語のジャンルは恋愛小説であるが、ミステリー要素も含んでいるので、女性から男性にもおすすめできる一冊だ。読み終えた時には受け継がれていく夢にとても感動し、やるせない気持ちになるので、是非とも読んでほしいと思う。

(安曇川高校2年 岡本 宙さん)



『嫌われる勇気』

岸見 一郎／古賀 史健 著
ダイヤモンド社

アドラー心理学を元にした書かれた本です。心理学と聞くと哲学的で難しいと感じる方も多いでしょう。ですが、この本は悩みを抱えた青年と哲人の会話形式になっているのでとても読みやすいです。この本の中で印象に残っているのは「自由とは他者から嫌われることである」という言葉です。嫌われまいと生きることは不自由なことだと気付かされました。他にも対人関係の悩みについて分かりやすくまとめられています。ぜひ読んでみてください。

(国際情報高校1年 森 美結乃さん)



『塀の中の美容室』

桜井 美奈 著
双葉文庫

ここは刑務所の中の美容室。この美容室で、一般人の髪を切る1人の美容師、葉留のもとに髪を切りに来る6人の女性たちの、過去や辛い現状などが描かれている、感動につつまれた連作短編集です。なぜ彼女たちはこの美容室へ行くのか、葉留はどんな罪を犯したのか。短編集ですが、六つの話がバラバラではなく、どこかで繋がっているのを読みやすく、一つ一つの話にとても引き込まれる小説です。是非読んでみてください。

(玉川高校1年 長田 莉実さん)



『人魚の眠る家』

東野 圭吾 著
幻冬舎

「答えてください。娘を殺したのは私ですか。」これは脳死した娘に包丁を向け、母が放った言葉です。数年前、不慮の事故で脳死判決を受けたのは、まだ幼い娘でした。自分の娘は生きているのか、死んでいるのか。臓器提供をすべきか、延命すべきか。過酷な運命を背負った母の葛藤と苦悩が、卓越された文で描かれています。現在の日本の法律についても深く考えさせられるお話です。大切な人がいる、全てのの人に読んでもらいたいです。

(守山高校1年 黒田 結衣さん)

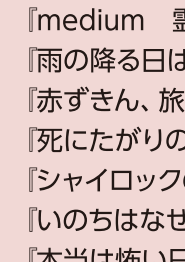


『フェリックスとゼルダ』

モーリス・グライツマン 著／原田 勝 訳
あすなろ書房

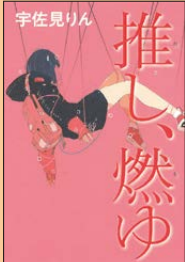
この物語の舞台は、第二次世界大戦中のポーランドです。当時はヒトラーに占領され、ユダヤ人が大虐殺されました。この本の主人公は、そんな境遇から逃れようとするユダヤ人の少年です。この本は最初に「身の上が語られたことのないすべての子ども達に捧ぐ」という言葉で始まります。この言葉は、たくさんの方の想いを背負った重い一言だと思います。私達は知らない、壮絶な世界と想いを感じながらこの本を読んでください。

(国際情報高校1年 竹井 七葉さん)



『medium 霊媒探偵城塚瑛翠』

相沢 沙呼 著 講談社 (国際情報高校2年 堀内 陽菜さん)
『雨の降る日は学校に行かない』 相沢 沙呼 著 集英社 (大津高校3年 三宅 梨香さん)
『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』 青柳 碧人 著 双葉社 (国際情報高校2年 武田 夢咲さん)
『死にたがりの君に贈る物語』 綾崎 圭 著 ポプラ社 (国際情報高校2年 赤松 綴奈さん)
『シャイロックの子供たち』 池井戸 潤 著 文藝春秋 (守山高校2年 谷内 大和さん)
『いのちはなぜ大切なのか』 小澤 竹俊 著 筑摩書房 (ちくまプリマー新書) (草津高校3年 高岡 美羽さん)
『本当は怖い日本の神話』 古代ミステリー研究会 編 彩図社 (米原高校2年 田谷 彩音さん)
『ディズニー式 サービスの教え』 小松田 勝 著 宝島社新書 (MIHO美学院中等教育学校2年)
『君は月夜に光り輝く』 佐野 徹夜 著 KADOKAWA／メディアワークス文庫 (国際情報高校1年 塚本 るるさん)
『一度死んでみた』 澤本 嘉光／鹿目 けい子 著 幻冬舎文庫 (米原高校2年 児玉 翔琉さん)
『シャイロックの子供たち』 サン＝テグジュペリ 著／河野 万里子 訳 新潮文庫 (国際情報高校1年 馬場 せつ子さん)
『青い鳥』 重松 清 著 新潮社 (守山高校1年 太田 衣登葉さん)
『また、同じ夢を見ていた』 住野 よる 著 双葉社 (国際情報高校2年 宮崎 奏良さん)
『君の臓臓をたべたい』 住野 よる 著 双葉社 (守山高校2年 真田 俊介さん)
『人間失格』 太宰 治 著 集英社文庫 (虎姫高校1年 野崎 晃大さん)
『ツナグ』 辻村 深月 著 新潮社 (国際情報高校2年 西村 美優さん)



『推し、燃ゆ』

宇佐見 りん 著
河出書房新社

「推ししか勝たん」そんな言葉をよく耳にする。私は「推し」がいる人にぜひこの本を読んでほしいと思っている。この本は突然、主人公の推しが炎上するところから話が始まる。それでも推しを推し続ける主人公の感情や行動が、文字だけなのに手にとるように伝わってくる。この本でしか味わえないリアルな描写に引き込まれること間違いなしの作品だ。主人公にとって、あなたにとって、「推し」とはいったい何だろうか？

(虎姫高校1年 山崎 静良さん)



『みんな蛍を殺したかった』

木爾 チレン 著／紺野 真弓 画
二見書房

「私も、オタクだから」東京から転校してきた美少女、七瀬螢は、京都の女子校で3人のオタク女子にそう告げる。だんだんと親睦を深め、永遠の親友とも呼べる仲に。しかし、誕生日に螢は自殺をする。登場人物の感情が生々しく表現されていて、人間の欲望が詰め込まれたような作品でした。また、後半からの螢視点は、前半の答え合わせのような感覚で、読むのが楽しく、明かされる3人の本心、螢の過去や想いが、予想を越えていて印象的でした。

(米原高校1年 伊藤 来未さん)



『すべての神様の十月』

小路 幸也 著
PHP研究所

この本は、様々な神様を主役とする連作短篇集です。この作品に登場する神様達は皆個性豊かで、人間味のある方たちだけです。そんな彼らには、それぞれに仕事があります。死ぬ人を見届ける死神、幸福すぎる人に取り憑きバランスを取る貧乏神など、本当にこんな神様達が実在するのではないかと思う程現実的で、しかしどこか神秘的な話になっています。最後まで心温まる話です。ぜひ手に取って読んでみて下さい。

(長浜北星高校2年 川畑 千優さん)



『魔女の家 エレンの日記』

ふみー 著
KADOKAWA

私が紹介する『魔女の家 エレンの日記』という小説は、有名フリーホラーゲーム『魔女の家』の前日譚にあたるストーリーとなっています。ゲーム内のストーリーの補足的なものではあるので、ゲームを知っている人は絶対に楽しめますし、知らない人でも巧みな言葉使いや展開に惹かれると思います。不幸だった主人公に転機が訪れるというよくある展開ですが、みんながハッピーなエンドではないです。悪の活躍を見た人におすすめです。

(湖南農業高校2年)



『カラフル』

森 絵都 著
文春文庫

生前に大きなあやまちを犯して死に、前世の記憶をなくした主人公、ぼく。そのぼくが、自殺をした少年の体を借りて、自分が犯したあやまちを探していく話です。リアルな設定で、重くなるような展開もありますが、ファンタジー要素や機知に富んだ文章のおかげで、とても読みやすいです。この本がきっかけで、自分自身の可能性に気づけた気がします。ぜひ読んでください。

(近江兄弟社高校2年 岡本 颯斗さん)



『昔話法廷』

NHK Eテレ「昔話法廷」制作班 編／今井 雅子 原作／イマセン 法律監修／伊野 孝行 挿画 金の星社

皆さんは、昔話に疑問を感じたことはありませんか。『三匹のこぶた』の狼は、ぶたの兄弟の家を吹き飛ばしますが、その後、こぶたたちに殺されて食べられてしまいます。彼らは自分の身を守るためとはいえ、現実には置き換えると、「殺害」になってしまうのではないのでしょうか。昔話から読みとれる深い意味は、考えだすとキリがありません。この本は、昔話の曖昧な部分を法で裁くユニークな本です。

(MIHO美学院中等教育学校1年)

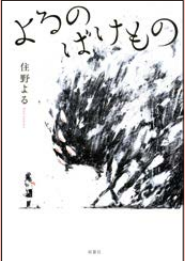


『+1cm たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える』

キム・ウンジュ 著／薬田 順子 訳 文響社

「たった1cm見方を変えるだけで世界は180度変わる。」という信念を元に書かれた、ベストセラーになった一冊です。私達が生活している中で出てくる、仕事や人付き合い、恋愛など、様々な悩みや考え方をがらりと変えてくれる、とてもポジティブな本です。この本に出会ってから、嫌な事が起こるのは自分がマイナスな想像をしているからなのだと気づく事が出来ました。今、特に悩みが無い人も、新しい発見があると思うので、ぜひ読んでください。

(草津高校3年 西田 梨乃さん)



『よるのばけもの』

住野 よる 著
双葉社

本当の自分って、どんなのでしょうか？友達と話すのが好きな自分？一人で本を読むことを幸せだと感じる自分？いじめを眺めているだけの自分？夜の「化け物」の自分？この本は、夜になると化け物になってしまう少年が、夜の教室で、昼にいじめられているクラスメイトの少女と出会い、彼女に対しての認識を少しずつ変えてゆくお話です。リアリティがあり、読み終えた後に色々考えさせられる作品なので、ぜひ読んでみてください。

(東大津高校2年 神田 大渡さん)



『老人と海』

ヘミングウェイ 著／高見 浩 訳 新潮文庫

何に憧れ生きるのか。これは人間の内にある情熱を奮い立たせる、剛勇な作品だ。老漁夫サンチャゴは、獲物を求め遠い海へ出る。そこには度重なる苦難が待っていた。情景描写が多く、迫力ある漁の様子が鮮明に浮かんでくる。その中に彼の普遍的で熱い信念が伺えると共に、作者が自身を主人公に投影している様にも感じられる。最後にサンチャゴは何を得て、何を失ったのか。臨場感あふれる描写と1人の老人に感極まる。

(虎姫高校1年 中川 唄さん)



『ナナメの夕暮れ』

若林 正恭 著
文藝春秋

人気お笑いコンビ「オードリー」のツッコミである若林正恭氏の、人見知りならではの視点での世界のものごとの捉え方を楽しく読める本。本人はとてもネガティブで、あまり人と交流するのが好きではないようで、ファンへの辛辣なツッコミや、先輩芸人への面白い返しなどの、お笑い芸人が好きな人やネガティブな人はとても楽しめるエッセイだ。はじめてに、あるように、毎日が楽しいという人にはあまりおススメはできない。

(国際情報高校2年 浦田 竣也さん)



『木曜日にはココアを』

青山 美智子 著
宝島社

ひとつのカフェでの出来事からはじまり、小さな物語が繋がっていく温かい気持ちになれる一冊。日常の中で起こる些細なことが人と人とを結びつけていく、共感できる、寄り添ってくれる本です。表紙・裏表紙に登場している人物は物語に登場しているので、それを知った上で読むと違った目線で読むことができ、面白いです。最後の場面までほっこりできるので注目の一冊です。



『最後は会ってさよならをしよう』

神田 霽 著
KADOKAWA

この本は1ページに1つの物語の短編集です。しかも1ページ140字でできています。なのにクスッと笑えたり、切なくなったりととても心に響く小説です。小説を読むのが苦手な人や忙しい人でも簡単に読める手軽さです。ぜひ読んでほしい小説です。

(能登川高校1年 濱野 妃那さん)



『だめなら逃げてみる 自分を休める225の言葉』

小池 一夫 著 ポプラ社

この本は、本屋に入ってたまたま見つけた本でした。この本を読んで私は、人生がいっしょに楽になった気がします。時には逃げ出してみる。時には頑張ることを休んでみる。時には忘れてみる。最初は、「甘え」だと捉えていましたが、読み進めていくことで理解しました。うまくいかない時どうしたらいいのか、「正しい方向へ一歩進むための休息をとる。」この考え方が、この本に書かれています。特に悩み事がある人は、一度手に取ってほしいです。

(米原高校1年)



『女生徒』

太宰 治 著
KADOKAWA／角川文庫

なんとなく手に取ったこの本は、太宰治のファンである女性が彼に送った1冊の日記がもとになったと言われています。この本は短い場面がいくつも登場しますが、何度も変わるの場面だけではありません。それは、主人公である年頃の女性の不安定な心情です。自分や身の周りのことに対して、喜びやいらだちなどの感情が交互に何度も表れます。だから、私たち女子高生にとっては、とても共感できる本であるだろうと思っています。

(大津高校3年)



『AIに心は宿るのか』

松原 仁 著
集英社インターナショナル

みなさんは、AIに興味はありますか。AIは心がないもので将来人間を支配するものだ、AIを消極的に捉える人も多いと思います。一方で、AIは既に将棋や囲碁などで活用されています。AI棋士は、今となっては人間の棋士にとっては敵わない相手なのです。将来、AIと人間の区別はなくなっていくかもしれません。その中、人間とAIはどう共存していくのでしょうか。考えるヒントは、この本の中に。

(守山高校1年 奥野 創大さん)

ポスターに掲載しきれなかった紹介文は、「**におねっと**」の「**子ども読書活動支援センター**」に掲載しています。ぜひご覧ください。

HPはこちら

『目を見て話せない』 似鳥 鶏 著 KADOKAWA (米原高校2年)
『あやうく一生懸命生きるところだった』 ハ・ワン 著／岡崎 暢子 訳 ダイヤモンド社 (長浜北星高校3年 藤本 さつきさん)
『あの夏の正解』 早見 和真 著 新潮社 (草津高校2年 高岸 あのんさん)
『それぞれの名前』 春間 美幸 著 講談社 (米原高校1年 西野 美裕さん)
『パラドックス13』 東野 圭吾 著 講談社文庫 (虎姫高校1年 田中 美優さん)
『マスカレード・ホテル』 東野 圭吾 著 集英社 (米原高校2年 木下 翔悟さん)
『ラプラスの魔女』 東野 圭吾 著 KADOKAWA／角川文庫 (守山高校2年 新原 菜摘さん)
『生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉』 日野原 重明 著 幻冬舎 (米原高校1年 上田 萌心さん)
『ボッコちゃん』 星 新一 著 新潮社 (虎姫高校1年 廣畑 亮太さん)
『竜とそばかすの姫』 細田 守 著 KADOKAWA／角川文庫 (大津高校1年)
『15歳のテロリスト』 松村 涼哉 著 KADOKAWA／メディアワークス文庫 (大津高校1年 桑本 愛紅さん)
『銀河鉄道の夜』 宮沢 賢治 著 明治図書 (国際情報高校1年 三田 真羽音さん)
『余命3000文字』 村崎 羯諦 著 小学館 (米原高校1年 伊藤 莉子さん)
『友達ゼロで不登校だった僕が 世界一ハッピーな高校生になれたわけ』 よしあき 著 KADOKAWA (国際情報高校1年 大野 心愛さん)